

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
中日本航空専門学校		昭和57年4月1日	中村 寿志	〒 501-3924 (住所) 岐阜県関市迫間字吉田洞1577-5 (電話) 0575-24-2521				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人神野学園		昭和40年2月18日	山田 弘幸	〒 460-0001 (住所) 名古屋市東区泉1丁目23番37号 (電話) 052-971-6161				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	エアロスペース科		平成22(2010)年度	-	令和 5(2023)年度		
学科の目的	航空機及び関連機器等の設計、製造、検査等の技術者を養成							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	3次元CAD利用技術者、生産士、有機溶剤作業主任者、非破壊検査技術者、実用英語技能検定、TOEIC							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,400 時間		1,320 時間	0 時間	1,580 時間	0 時間	0 時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率	※2023年4月に「航空生産科」から名称変更。(現在、1.2年次学生のみ在籍)			
40×2=80人	15人	0人	0%	10%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		0人					
	■就職希望者数(D)		0人					
	■就職者数(E)		0人					
	■地元就職者数(F)		0人					
	■就職率(E/D)		0%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和5年度卒業者に關する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 航空機および航空機関連部品メーカー等						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:			無				
※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL: _____								
当該学科のホームページURL: https://www.cna.ac.jp/department/maintenance/structural-maintenance/								
企業等と連携した実習等の実施状況	(A: 時間による算定)							
	総授業時数							2,900 時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数							320 時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数							0 時間
	うち必修授業時数							320 時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数							320 時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数							0 時間
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)							20 時間	
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)							2人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)							0人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)							0人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)							1人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)							1人
	計							4人
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数							2人	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。))との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)に活かす。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け
 企業関係者などの外部委員と中日本航空専門学校で意見交換を行い、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日

名前	所属	任期	種別
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	①
小嶺 茂也	朝日航洋株式会社 西日本航空支社 整備部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
加古 太一	三菱重工業株式会社 HRマネジメント部 名古屋HRビジネスパートナーグループ 主任	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
直川 秀雄	三菱電機システムサービス株式会社 産業システムセンター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
岡本 真治	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
中村 寿志	中日本航空専門学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
花田 正樹	中日本航空専門学校 副校長、就職キャリア支援センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
浅井 隆司	中日本航空専門学校 副校長、エアロスペース科・航空生産科学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
加藤 伸幸	中日本航空専門学校 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
大村 聖彦	中日本航空専門学校 学生部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
杉原 秀則	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
田中 希代子	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
梶田 和彦	中日本航空専門学校 航空ロボティクス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
中島 圭一	中日本航空専門学校 国際交流センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (開催時期) ※年2回開催
 令和5年度 第1回令和5年7月19日、第2回令和5年12月5日
 令和6年度 第1回令和6年7月17日、第2回令和6年12月3日

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 本校で策定した教育課程について各委員の意見、見識を伺い、授業や今後の教育課程の編成に反映させている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。))の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 教育内容に関するノウハウや最新技術の情報、技術指導などを受けることができる企業と連携して実践的な実習・演習等の授業を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 CAD設計やエンジンの整備、修理・検査業務など実務を行っていた方に講師として来ていただき、より実践的な知識、技能を習得する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
宇宙工学実習(基礎)(応用)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	通信、気象、GPS等の宇宙分野の技術は身近なところに恩恵を与えているが、実際の人工衛星等の機器に接する機会はなく、体得するのが難しい分野である。本授業では、模擬人工衛星であるCANSATの構造から電子回路までの製作を体験し、将来、技術者・技能者として必要となる「ものづくり」に関する基礎スキルを身に付ける。	東航エンジニアリング株式会社
CAD実習Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	コンピュータを使用した3次元CADソフトの操作法と利用方法を習熟することにより、3次元モデル部品(フィーチャ)作成、部品組立(アセンブリ)方法、干渉不具合発見方法や可動部操作(ドライブ)方法、表題欄や部品欄を伴う三面図作成(ドラフティング)手法などを学習する。 3次元CADを利用している企業は年々増加傾向にあるとともに、3次元CADを利用した設計が急速に進展している背景にある。その背景に伴い、3次元CADを用いた実務的な設計業務や生産技術業務を遂行できる技術者育成が急務となっている。そこで本授業においては、これまでに経験した設計能力を基盤として、3次元CADを用いたさらに高度な技術やより実践的な能力を身に付けることを目的とする。	サンテック株式会社
インターンシップ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	委託先企業の研修計画に沿い、製造業における実務業務を担当する。	㈱SUBARU、㈱IHI、㈱IHIエアロスペース、ヤマザキマザック㈱、三菱重工業㈱、新明和工業㈱、ジャパンマリンユナイテッド㈱、イビデン㈱、日本トムソン㈱、榎本ビーエー㈱、ANAエンジンテクニクス㈱、川崎重工業㈱計12社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
現在担当している教育又は将来担当する教育に関する知識、技術、技能の習得・向上や授業改善、学生指導などに関する研修を組織的に行い教員の資質の向上を図る。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 構造整備業務に関する研修 期間: 令和6年2月2日 内容: エアラインで必要とされる航空機の構造整備についての知識や技術を学ぶ	連携企業等: ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 対象: エアロスペース科教員
--	--

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 困った学生事情と対応の共有 期間: 令和5年9月16日 内容: 全員が現在・過去を含め困った学生の事について共有し、今後の学生対応に役立てる。	連携企業等: 学生支援課 対象: 全教職員
研修名: 教育のICT化 期間: 令和5年9月16日 内容: Teamsワークショップ	連携企業等: 航空整備科教員 対象: 全教員

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 大型機構造修理研修 期間: 令和6年10月3日～4日 内容: 航空機の製造とOperatorとしての航空機の整備および改造の違い	連携企業等: ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 対象: エアロスペース科教員
---	--

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: SD研修 期間: 令和6年12月21日 内容: 学生のメンタルヘルス対策	連携企業等: 岐阜医療科学大学 教員 対象: 全教職員
---	--------------------------------

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、個別に取り組み状況を説明し、聞き取り調査を行い活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、学校運営が適正に行われているかを評価いただき、各委員の意見、見識を伺い、今後の学校運営に反映させている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日

名前	所属	任期	種別
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	企業等委員
河野 邦宏	中日本航空専門学校 教育後援会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	保護者
久保 祐一	田原みらいづくり協議会 代表	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	地域住民
横山 実	中日本航空専門学校 航友会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	卒業生
堀 秀樹	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	高等学校校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
URL: <https://www.cna.ac.jp/information/>
公表時期: ホームページにて毎年10月ごろ公表

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアロスペース科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			人間学 I	学生一人一人が教育理念を理解し、目標に向かって大切な時間を過ごしていくために心掛けて欲しい以下のことについて、講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。1. 勉学の前に身につけるべき習慣や守らなければならない事項 2. 豊かな人間性とはどのようなものかについて	1 通	20	1	○			○		○			
○			数学 I	工学分野の学習には数学的知識が不可欠である。そこで、高校までに履修した数学の補完を前提にして復習も行いながら、基礎学力の更なる向上をはかるため高校から大学1年生レベルにまで少し拡張した内容につき教授する。授業においては「演習問題」を解くことにより学生の理解を深める。	1 通	60	4	○			○				○	
○			物理 I	前期では、現代における物理学とは何かを概観した後、力と運動、仕事とエネルギーといった力学分野を学ぶ。後期には、力学以外の分野として熱と温度、波、電磁気の各分野について その基本を学ぶ。	1 通	60	4	○			○				○	
○			体育 I	人体の骨格や筋肉について、その役割や性質について学習すると共に、職業選択や決定において適正となりうる体力の向上と、将来に渡り体力の保持増進を図るための方法を学習する。	後 1	30	-			○	○				○	
○			スキルアップ基礎	就職試験に向けて、適性試験の能力検査における「非言語分野」の算数、数学的スキルアップを図るため、利用度の高い市販の適性試験用問題集を用いて学習する。具体的には、例題を解説し、関連する問題を時間をかけずに解かせ、回答の正誤を自身で確認させて、解法の解説をする。これを繰り返して問題解決力のレベル向上を図る。	後 1	30	2	○			○			○		
○			英語A I - 1	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている英検合格を目指す。中学・高校からの基礎的な英文法を再確認し、英語力をつける。	1 前	30	2	○			○				○	
○			英語A I - 2	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている英検合格を目指す。中学・高校からの基礎的な英文法を再確認し、英語力をつける。	1 後	30	2	○			○				○	
○			英語B I - 1	就職活動および就職後の実社会での英語活用を見据え、中学・高校で習得した文法を基本として、英語力全体をブラッシュアップしていく。多くの企業で英語力の指標として活用されているTOEIC&Rテストの実践問題や頻出問題などの演習をし、TOEICのスコア向上を目指す。	1 前	30	2	○			○				○	
○			英語B I - 2	就職活動および就職後の実社会での英語活用を見据え、中学・高校で習得した文法を基本として、英語力全体をブラッシュアップしていく。多くの企業で英語力の指標として活用されているTOEIC&Rテストの実践問題や頻出問題などの演習をし、TOEICのスコア向上を目指す。	1 後	30	2	○			○				○	
○			機械設計・製図	描き方ひとつで信頼性や価格を左右してしまう重要なテクニックのひとつである製図について、具体的な図形や写真を使って解説する。図面を読み描きする図解力を養うために練習ノートを使用して身につける。各授業の最後には、小テストを行い習得の確認をする。	1 前	60	1			○	○			○		
○			CAD実習 I	2次元汎用CADは様々な業種の2D図面の作図を行い、ファイルとして保存、その修正、再利用を効率的に行えます。そのCADの操作法と利用方法を習熟する。また、コンピュータシステムおよびCADシステムを使いこなすための知識や製図の基礎、図形の知識を基礎的かつ幅広く習得する。	1 通	120	3			○	○			○		
○			航空工学 I (概論)	航空機や宇宙機に関することを学習していく上で、その入門的事項としてそれらの全体的概論を理解することは重要な意味を持つ。航空機の形態や歴史、飛行理論、設計・生産技術や製造方法、構造や装備品といった全般的なことを広く学びながら、それらの基本的事項を習得する。	1 前	30	2	○			○				○	
○			航空工学 I (構造)	軽飛行機、ジェット旅客機、小型高速機などの代表的な航空機について、機体の構成や各部位の内部構造とその特徴を学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○	

(工業専門課程 エアロスペース科)

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			航空宇宙材料	航空機、宇宙機に使用される材料の工学的基礎知識は、将来、航空機あるいは宇宙機の設計、製造、品質保証などの分野で実務につく際に欠かせない。本科目では、基礎知識として必須と考えられる航空宇宙分野で特徴的な、アルミニウム合金、チタン合金、マグネシウム合金、複合材料などの機械的性質、製造上の留意点、適用分野などを中心に講義する。	1 後	30	2	○			○			○		
○			航空エンジン工学	航空機のジェットエンジン、推進工学は、航空機にかかわる基礎工学の一つであり、重要な項目である。したがって、航空機のジェットエンジン等を、設計、製造、検査等する際には、一般的な共通知識であり、基本事項をしっかりと理解して習得する。	1 前	30	2	○				○			○	
○			エンジン実習	Rolls Royce250-C20ターボシャフトエンジンを分解・組立て実習を行うことにより、基本的なジェットエンジンの構造について名称や機能を理解する。	1 後	60	1				○	○			○	
○			宇宙工学	現在においては通信・放送・気象・測位・地球観測などわれわれの日常生活に宇宙工学の技術が大きく関わっている。そこで現在の時代背景に照らして宇宙開発に対する常識を身につけるために、地球と宇宙環境の違い及び現在の宇宙開発状況に於ける課題、今後の展望などを事例に基づき説明し、宇宙工学の入門編としての基礎をしっかりと学ぶ。	1 前	30	2	○				○			○	
○			宇宙工学実習	通信、気象、GPS等の宇宙分野の技術は身近なところに恩恵を与えているが、実際の人工衛星等の機器に接する機会はなく、体得するのが難しい分野である。本授業では、模擬人工衛星であるCANSATの構造から電子回路までの製作を体験し、将来、技術者・技能者として必要となる「ものづくり」に関する基礎スキルを身に付ける。	1 後	60	1				○	○			○	○
○			品質保証・検査工学	航空宇宙産業分野における品質保証は他産業に比べてより厳しいものになっており、今後、この分野に身を置くものにとって、その概要を理解しておくことは必須である。そのため、JIS Q 9100に代表される品質保証の基本的考え方、品質保証の手段として重要な整備及び検査の内容、さらに検査手法として重要な非破壊検査方法などについて概説し、航空宇宙分野の品質保証全体が概ね把握できるよう図る。	1 前	30	2	○				○			○	
○			基本実習 I-1	航空機の生産職に必要な安全衛生、一般工具の名称・取扱い、計測機器等の取扱い及び締結作業を学び、安全・確実な作業を行う基本的な知識・技量を習得する。	1 前	60	1				○	○			○	○
○			基本実習 I-2	航空機製造技術の組立・加工の基本知識と技量を実習を通して習得させる。	1 後	60	1				○	○			○	○
○			組立実習 I	本教科は、1年次前期で学んだ「基本技術」を復習・応用し、実際に小物製品の組立製作を行う。2次元図面から立体図をイメージし、加工部・構造・組立手順や方法を考え、品質のよいものづくりの基本的な知識・技量を習得する。	1 後	60	1				○	○			○	
○			人間学Ⅱ	自分のキャリアデザインを実現するために必要な自己分析や企業研究等の方法、考え方を講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	2 通	20	1	○				○			○	
○			スキルアップセミナー	SPIの言語分野および非言語分野について、例題を解説し、問題演習を行う。一般常識として、社会、理数、文化、国語・英語など幅広い分野の設問に取り組み、知識の定着を図る。	2 通	60	4	○				○			○	
○			英語AⅡ-1	実践的な英会話力を身に付けられるようにする。英語を通し異文化を知り、さらにグローバルな英語を学ぶ。同時に1年次に引き続き、英検取得のための学習をする。	2 前	30	2	○				○			○	
○			英語AⅡ-2	実践的な英会話力を身に付けられるようにする。英語を通し異文化を知り、さらにグローバルな英語を学ぶ。同時に1年次に引き続き、英検取得のための学習をする。	2 後	30	2	○				○			○	
○			英語BⅡ-1	基礎文法力の強化に加え、ビジネスシーンでよく使われる語彙も強化する。効果的なTOEICの解き方を習得し、該当問題を解く。音読、音読筆写、会話練習、問題解説時にはアクティブラーニングを取り入れ、学生主体の授業を展開し、リスニング力、リーディング力を総合的に上げていく。	2 前	30	2	○				○			○	

(工業専門課程 エアロスペース科)

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			英語BⅡ-2	基礎文法力の強化に加え、ビジネスシーンでよく使われる語彙も強化する。効果的なTOEICの解き方を習得し、該当問題を解く。音読、音読筆写、会話練習、問題解説時にはアクティブラーニングを取り入れ、学生主体の授業を展開し、リスニング力、リーディング力を総合的に上げていく。	2 後	30	2	○			○			○		
○			CAD実習Ⅱ	コンピュータを使用した3次元CADソフトの操作法と利用方法を習熟することにより、3次元モデル部品(フィーチャ)作成、部品組立(アセンブリ)方法、干渉不具合発見方法や可動部操作(ドライブ)方法、表題欄や部品欄を伴う三面図作成(ドラフティング)手法などを学習する。	2 通	120	3			○	○			○	○	
○			材料力学-1	航空機構造の材料力学は、航空機にかかわる基礎工学の一つであり、重要な項目である。したがって、航空機・宇宙機の構造等を、設計、製造、検査する際には、一般的な共通知識であり、基本事項をしっかり理解して習得する。	2 前	30	2	○			○				○	
○			材料力学-2	航空機構造の材料力学は、航空機にかかわる基礎工学の一つであり、重要な項目である。したがって、航空機・宇宙機の構造等を、設計、製造、検査する際には、一般的な共通知識であり、基本事項をしっかり理解して習得する。	2 後	30	2	○			○				○	
○			生産管理	生産現場のリーダーに求められる管理技術を体系的に学習し、現場の職場管理の一般的な知識を習得するため、4分冊構成のテキストを用い、職場の基礎知識、作業の計画と統制、評価と分析、及び職場の問題解決の手法等について学習する。	2 通	90	6	○			○				○	
○			機械加工Ⅰ (CAM 基礎)	現代におけるわが国の工作機械の主流は数値制御型であり、その基礎知識は設計、工作、特に生産技術に直接携わる者全てが会得すべきものである。CAD(コンピュータ支援設計)からCAM(コンピュータ支援製造)への展開知識やCAMの中核をなすNCプログラム(NC言語を含む)についての基礎知識を習得し、NC加工機械を使用して作品加工を体験することでCAM技術の基礎を学ぶ。	2 通	120	3			○	○				○	
○			組立実習Ⅱ	本教科は、1年次に学んだ「基本技術」を応用して、図面の見方、機体構造の概要を習得させ、組立作業手順書をもとに航空機の組立技術を体験させる。製品に対する予備知識、作業要領を学び創造力を培い責任感を習得させる。班員のコミュニケーションを大事に実習を通して社会人としての心得(協同作業、安全第一、ルール等)を学ぶ。	2 通	120	3			○	○			○		
○			複合材工作	航空機や自動車、スポーツ用品などに使用されている複合材の材料であるプリプレグを用いて、平板や立体的な形状のリップなどを作成する複合材成形の作業手順を理解し、オートクレーブ成形法による複合材の成形法を習得する。	2 通	120	3			○	○			○		
○			インターンシップ	委託先企業の研修計画に沿い、製造業における実務業務を担当する。	2 通	20	-			○	○			○	○	
	○		検査工学Ⅰ(放射線透過検査)	非破壊検査は航空機製造における特殊工程として設備・技量の検定対象とされ、また他の工業でも(社)日本非破壊検査協会の認定する有資格技術者(JIS Z 2305による資格認証制度)が尊重される傾向が強まっています。本科目では放射線透過試験のレベル1のカリキュラムに従って、講義と実技により放射線技術者としての知識と技能を習得することを目的とする。	2 通	120	3			○	○				○	
	○		検査工学Ⅰ(超音波探傷検査)	座学及び実習によって、下記事項の習得を図る。 1: 超音波を用いた、鋼材の内部欠陥探傷方法の原理、意義の理解。 2: 実際の探傷要領(迅速かつ的確な傷の位置大きさの確認及び欠陥評価要領)の把握											○	
○			人間学Ⅲ	社会人として必要な基礎知識、ルール、マナーおよび求められる基礎力について、講義、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	3 通	20	1	○			○			○		
○			体育Ⅱ	社会で生きて働く健康に関する知識と体力の保持増進を図り、仲間と一緒に運動する喜びを味わわせ、将来にわたり進んでスポーツや運動に親しめる態度を養う。	3 通	60	1			○	○				○	

(工業専門課程 エアロスペース科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			英語AⅢ-1(基礎コース)(応用)	(基礎)企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている英検合格を目指す。中学・高校からの基礎的な英文法を再確認し、英語力をつける。 (応用)英検合格に必要な英語力を身に付けられるように、基礎的な文法を再確認し、練習問題、過去問、小テスト等で、資格取得を目指す。更に実践的な英会話力も身に付けられるようにする。	3前	30	2	○			○			○		
○			英語AⅢ-2(基礎コース)(応用)	(基礎)企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている英検合格を目指す。中学・高校からの基礎的な英文法を再確認し、英語力をつける。 (応用)英検合格に必要な英語力を身に付けられるように、基礎的な文法を再確認し、練習問題、過去問、小テスト等で、資格取得を目指す。更に実践的な英会話力も身に付けられるようにする。	3後	30	2	○			○			○		
○			英語BⅢ-1	中学から今までに習得した英語の基礎力に加え、さらに必要な基礎を確実に身につける。多くの企業で英語力の指標として活用されている【TOEIC】の効率的、効果的な解法を理解する。写真や絵などのビジュアル付きのテキストなども使いながら、楽しく英語を学び、英語に対する苦手意識を払拭する。	3前	30	2	○			○				○	
○			英語BⅢ-2	中学から今までに習得した英語の基礎力に加え、さらに必要な基礎を確実に身につける。多くの企業で英語力の指標として活用されている【TOEIC】の効率的、効果的な解法を理解する。写真や絵などのビジュアル付きのテキストなども使いながら、楽しく英語を学び、英語に対する苦手意識を払拭する。	3後	30	2	○			○				○	
○			航空英語—1	航空機の機体や部位・部材の英語表現を解説し、航空機産業で使われる用語の理解を図る。トピックスとして、航空電子・宇宙機の英語表現や渡米時に見聞する事物を概説する。次に設計関係で必要になる英語表記を学習する。	3前	30	2	○			○				○	
○			航空英語—2	航空機の製造・生産体制・運用で使われる英語表現や略語を解説し、航空機産業で使われる用語の理解を図る。また、生産活動の一般常識を題材に、和英対訳版のテキストを用いて 英文和訳・和文英訳の演習を行う。	3後	30	2	○			○				○	
○			構造設計特論Ⅰ	航空機図面には、JIS製図規定によらない航空機特有の規定や設計用語、図面作成上のルール等がある。それらの基本を学習することで設計・検査・製造に不可欠な読図法を習得する。また、航空機構造に作用する荷重を理解し、それらの設計・解析理論を学ぶことで図面化までに至る設計手法の基本を習得する。	3通	60	2	○			○				○	
○			構造設計特論Ⅱ	航空機構造やそのシステム系を含め世の中に存在する各種機械は様々な性質を持った部品から成り立っている。それらの部品は組立のために接合されたり、各々が回転や摺動したりして動きを伴ったりもする。これらの部品が故障することなく安全に機構するための基本的な設計法について学ぶ。	3通	60	2	○			○				○	
○			航空工学Ⅱ-1	航空宇宙関係の設計・製造分野で仕事をするためには、航空機の各種システムに関する全般的な知識が必要である。このため、航空機の構造、操縦システム、エンジンシステム、電子・電気に関連するシステムなどについて総合的に解説し、航空機におけるシステムの位置付けを把握し、その重要性を理解する。	3前	30	2	○			○				○	
○			航空工学Ⅱ-2	航空機の種類の中の一つであるヘリコプタについての工学は、航空機にかかわる基礎工学の一つであり、重要な項目である。ヘリコプタ工学は、ヘリコプタの設計、製造、検査等する際には、一般的な共通知識であり、基本事項をしっかりと理解して習得する。	3後	30	2	○			○				○	
○			航空工学特論Ⅰ	企業就職を迎え航空宇宙産業の歴史と現状を学ぶとともに、航空機の高速化に対応して高速空気力学、性能設計の実際、次に航空機最終検査項目の一つである重量・重量重心について学習する。また、航空宇宙業界の最新技術動向について、航空機、ジェットエンジン、構造・材料技術等を例にとり学習する。	3前	30	2	○			○				○	
○			航空工学特論Ⅱ	航空機の飛行荷重、航空機の性能は、航空力学にかかわる工学の一つであり、重要な項目である。したがって、航空機の設計、製造、検査する際には、一般的な共通知識であり、その基本事項をしっかりと理解し習得する。	3前	30	2	○			○				○	
○			宇宙工学特論	現在において通信・放送・気象・測位・地球観測さらにはこれらを含んだ安全保障の分野で人工衛星はなくてはならないインフラである。そこで1年次に宇宙工学の基礎を学んだ学生を対象に人工衛星のミッション、特に安全保障分野においてどのように人工衛星が応用されているかについて学ぶ。	3後	30	2				○			○		

(工業専門課程 エアロスペース科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生産システム	新機種の生産準備で必要になる次の事項について、実例の図表を参照しながら解説し、航空機生産の全体像を理解する。* コスト見積りと慣熟通減 * 製造分割、設備・工場計画、日程、工事計画* 治工具計画 * 構造組立と組立治具	3後	30	2	○			○			○	
○			基本実習Ⅱ-1	1年次に教育した基礎知識、技能等をベースにし、航空機生産技術者として即戦力となるような構造組立の基本技術を習得する。	3前	60	1			○	○			○	
○			基本実習Ⅱ-2	1年次に教育した基礎知識、技能等をベースにし、企業が求める航空機生産技術者として即戦力となる人材育成を図るため、更なる高度な構造組立技術を習得する。	3後	60	1			○	○			○	
○			検査工学Ⅱ(浸透探傷検査)	座学及び実習によって、下記事項の習得を図る。1:浸透探傷試験を用いた、アルミや鋳鋼品の表面欠陥探傷方法の原理、意義の理解。2:実際の探傷要領(迅速かつ的確な傷の位置大きさの確認及び欠陥評価要領)の把握。3. 様々な探傷方法にあわせた指示書作成。	3前	60	1			○	○			○	
	○		機械加工Ⅱ(CAM応用)	関係する日本工業規格(JIS)に基づくNCプログラムと加工技術基礎の習熟とNC加工で多用されるCAMソフトMastercamの操作法と利用方法を習熟する。なお、この実習ではソフトウェア習熟に併せてNC加工機(ミリングタイプ)による各種加工実験に取組み加工条件に関する知識を習得する。										○	
	○		航空機組立実習	本教科は、1年次に学んだ「基本技術」、2年次に学習した金属加工Ⅲ(主翼組立)を応用して、米国バーンズ社の軽飛行機 RV-4の組立キットを使用して、その構造と組立手順を学び、学生が自らの手で組立技術を体験すると共に最新の板金加工法、組立構造、組立順序、作業手順、生産管理等、企業に就職したときに即戦力として作業に従事できるための基礎知識を習得する。	3通	120	3			○	○			○	○
	○		CAD実習Ⅲ	3次元CADを利用している企業は年々増加傾向にあるとともに、3次元CADを利用した設計が急速に進展している背景にある。その背景に伴い、3次元CADを用いた実務的な設計業務や生産技術業務を遂行できる技術者育成が急務となっている。そこで本授業においては、これまでに経験した設計能力を基盤として、3次元CADを用いたさらに高度な技術やより実践的な能力を身に付けることを目的とする。										○	○
	○		検査工学Ⅱ(放射線透過検査)	非破壊検査は航空宇宙産業における特殊工程として設備・検査員の認証対象とされ、その難易度から非常に重要視されている。また、他の工業界においても有資格技術者(JIS Z 2305による認証制度)が尊重される傾向が強まっている。本科目では放射線透過試験レベル2のカリキュラムに従って、講義と実習を通じて放射線技術者としての知識と技能を習得し、企業において即戦力となる人材を育成する。	3通	90	2			○	○			○	
	○		検査工学Ⅱ(超音波探傷検査)	座学及び実習によって、下記事項の習得を図る。1:超音波を用いた、鋼材の内部欠陥探傷方法の原理、意義の理解。2:実際の探傷要領(迅速かつ的確な傷の位置大きさの確認及び欠陥評価要領)の把握										○	
					62	科目	2900					時数			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 全課程の修了に必要な総授業時数2,400時間		1学年の学期区分	2期
履修方法: 評価基準は、100~80点を優、79点~70点を良、69点~60点を可、60点未満を不可とし、優良可を合格とし、不可を不合格とする。評価方法は、筆記試験または、レポート、実技試験、成果物等により行う		1学期の授業期間	15週